

ひかりのこ

光の子



No.168 2015.3.30

●年間聖句 あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。(ローマの信徒への手紙 15章7節)



「春風」

表紙絵・中島由起子

「あたたかし」

ゆつたりと流れて広しあたたかし

大利根の波寄せて風光るかな

右方より左方の空のあたたかし

舟人も岸辺の人もあたたかし

てふてふの光りとなりて飛びあがる

あたたかし薔が花となるやうに

野は光ることも等光る風光る

落合水尾

(「浮野」主宰)

発行／社会福祉法人 光の子どもの家 TEL/0480-72-3883 FAX/72-6649 振替／00130-1-128022
編集／光の子 編集委員会 e-mail:hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp 〒349-1155 加須市砂原277 印刷／プリンティング瑛和
HPアドレス／hikarinokodomonoie.com

76歳になつて
こんなことを考えてみても、
どうしようもないのだが――

老健施設みゆきの丘施設長 仙道 富士郎

「考えない」というふうに、10歳にならぬことよんどうです。老健施設みゆきの丘施設長い。

朝を迎えるりすることもあり、起きているときはいつも眠いのだが、ご飯を食べあとは特に眠くなる。早々と夕飯を食べてソファーに横になるとウトウトしてしまうのだが、それは禁忌なのである。そのウトウトのために、今度は3時4時まで眠ることが出来ないことになる。

だから、眠くても頑張つて10時ころまで、起きていてそのこ

以前は、「眠れなかつたら本でも読めば良い。それだけ時間が儲かるじゃないか」などとそぶいていたのだが、そんな生易しいものではなくなつてきた。なにしろ、眠りについたとしても、一、二時間おきに限が覚

水俣病と出会い、それに命をかけて生きてきた人の生きざまは圧倒的である。40年かかつて「苦界浄土」を書きあげたこと、それが、彼女が生きるということだったわけである。60歳を過ぎた彼女の子どもが、インタビューに答えて、「水俣病と関わるようになつて彼女はすっかり変わつてしまい恐ろしかつた」と語っていた。さもあらなん。

彼女と水俣病との関わりの始まりは1960年代後半、私が学生運動に敗れて自堕落な生活をしていたこ

ろに眠りに落ち、朝まで眠るのが最良のパターンである。本など読んだらすぐ眠ってしまい、短時間で目が覚めて、それからは眠れなくなるのが落ちである。10—11時まで持たせるには、面白くもないテレビを延々と見続ける。テレビは私にとって娯楽ではなく、あまり効果の定かでない睡眠調整器なのである。しかし、この睡眠調整器は、あるとき私にとって凶器になつた。

土曜日の夜11時、Eテレの「日本人は何を目指してきたか 知の巨人たち」という番組に出会つた。その日は石牟礼道子の出番であつた。パーキンソン病に犯された彼女は、首を振りながら、それでも鋭い言葉の群れを吐き出す。

彼が偉いと思うのは第二次大戦が敗戦になつて、鬼畜米英から一夜にして民主主義礼賛になつた世の移り変わりを彼は絶対に認め兄も言つていた。「○○先生は戦時中盛んに小学生を戦争に向かわせたのに、一夜にしてアメリカ万歳、労働組合万歳に変わつてしまつた。だから○○先生は信用できない」と。でも多くの人たちがそうした行動をとつたことも事実である。

ると重なる。あの時点からいままで、この人は延々と水俣病と一緒に生きてきたのだと腑に落ちたとき、学生運動を辞めてから、何とはなしに過ごしたような50年を思いい、震えた。

次の週は睡眠調整のためにではなくて、見ようと思つてその番組を見た。

三島由紀夫の出番であつた。彼の最後の頃の行動は、今までも納得はしない。三島由紀夫お付きの女性編集者が言つていたが、彼にとっての至上価値は、やはり美であつたのだと思う。腹を切つて自己死する以外に自分の美を全うする術を持たなかつたのではないかとさえ思う。

彼が偉いと思うのは、第二次大

A detailed line drawing of a hydrangea branch. It features several long, thin, light-colored stems. At the top, there are two clusters of flowers, each composed of many small, round florets. A single, large, serrated leaf is attached to one of the stems.

新年度に向けて

施設長 竹花信恵

抱えているものの重さが伝わってきました。今の高校生が「やつと施設で生活していることを話せた」と言つて、いることも聞くことができましたが、そんな時に子どもたちと自分たちの肩の位置を改めて見比べざるを得ません。

「光の子どもの家のくせに」と言われたら、「光の子どもの家にいれちゃうぞ」と親に言われたという子どもの話も伝わってきたこともあつた一方、「ここに住みたい」と訪ねてくる中高生たちもいました。といつてもそこのからこの家の子どもになるわけではありません。それぞれの地域の児童相談所を通しての入所依頼を経て、ここで暮らしが始まります。出会った時から、ずっと続く関係が始まりさまざまなものがあります。

今のが少なく、小学生が多く、中高生の占める割合が過半数という状況になっています。思春期真っ只中の子どもたちの様々な表現、言動は覚悟していたとおりです。とりあえず10年後を想像しながら今に向き合わなければなりません。

次の週は睡眠調整のためにではなくて、見ようと思つてその番組を見た。

三島由紀夫の出番であつた。彼の最後の頃の行動は、今まで納得はしない。三島由紀夫お付きの女性編集者が言つていたが、彼にとつての至上価値は、やはり美であつたのだと思う。腹を切つて自己死する以外に自分の美を全うする術を持たなかつたのではないかと考え思う。

彼が偉いと思うのは、第二次大戦が敗戦になつて、鬼畜米英から一夜にして民主主義礼賛になつた世の移り変わりを彼は絶対に認めなかつたことである。亡くなつた兄も言つていた。「○○先生は戦時中盛んに小学生を戦争に向かわせたのに、一夜にしてアメリカ万歳、労働組合万歳に変わつた」。だから○○先生は信用できない」と。でも多くの人たちがそうした行動をとつたことも事実である。

年のときに敗戦になつたので、いま説明したような事情は、實際は良く分からぬのだが、仮に、敗戦のときに成人になつてゐたとして、三島由紀夫のようなごく一部の人たちを除いた多くの日本人と同じように、鬼畜米英から一日にして民主主義万歳に変わる輩に属していたようだ。

重いテレビを二回見て、私はこの数日落ち込んでいる。76年の自分の生は一体何だつたのだろうか。

いま、学長を終わつてからのボランティア活動の事を本にまとめかかっている。でもボランティアが何だというの？ 単なる自己満足なのではないの？ いま、参加している東日本大震災被災地の子ども達の支援だつて、本当に彼ら・彼女らの役に立つと思つてやつているの？

言葉はどこまでも追いかけてくる。

「76歳になつてこんなことを考えてみても、どうしようもないのだが――。」

少なくとも立ち止まる時間くらいあるだろう。

抱えているものの重さが伝わってきました。今の高校生が「やつと施設で生活していることを話せたと言っていることも聞くことができましたが、そんな時に子どもたちと自分たちの肩の位置を改めて見比べざるを得ません。

「光の子どもの家のくせに」と言われたら、「光の子どもの家で何が悪い?」と言い返せる子どもたちに、ということが差別とたたかうことが必要だった時代の私たちの合い言葉のようなものでした。子どもが何かしたとき「光の子どもの家にいれちゃうぞ」と親に言われたという子どもの話も伝わってきたこともあつた一方、「ここに住みたい」と訪ねてくる中高生たちもいました。といつてもそこからこの家の子どもになるわけではありません。それぞれの地域の児童相談所を通しての入所依頼を経て、ここで暮らしが始まります。出会った時から、ずっと続く関係が始まりさまざまなることがあります。つて今に至っています。

今の光の子どもの家では、幼児が少なく、小学生が多く、中高生の占める割合が過半数という状況になっています。思春期真っ只中の子どもたちの様々な表現、言動は覚悟していたとおりです。とりあえず10年後を想像しながら今に向き合わなければなりません。

「普通の家庭じゃない」「どうしてここにいなきやならないんだ」そんな言葉の中の気持ちを考え受けとめながらも時には、見過ごしにできないこと、自分たちのできることではないと思わざるを得ないことにぶつかります。子どもを守れるかどうか、その最低ラインを見つめる必要に迫られます。そんな時何か特別な解決方法、まさに特効薬がほしくなりますが何にしても信頼関係が問われることには変わりありません。とりあえず自分たちのできることは何か考えると同時に代わりに生きていくことがでかけるわけではないその子の歩みを応援していく姿勢を確認していきます。

ひとりひとりとてもかわいい子どもたちではあります、大切であるというその気持ちを届けるのは本気が試されます。誰にとつても一回限りの人生ですが、まちがつたらもう一度やり直すその道筋をともに探すことができる家に、その役割を果たしていけるよう願っています。

やわらかな陽射しが差しこみ、木々の緑がかがやく次の季節に向かって、たくましく成長を続ける子どもたちをこれからも見守つていていただけますよう、光の子らしく歩み続けることができますようお祈り下さい。これからもどうぞよろしく御願いいたします。

ハーモニカ

中島 瞳雄

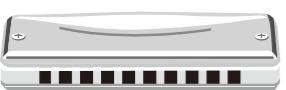
奥に、ハーモニカがあつた。も
ち論、自分で置いたのだが、もう、何年も吹いて
いない。取り出してみた。
そこで、音楽を聞くのをやめて
ハーモニカを吹いてみた。正しい
持ち方などは知らないが、音を出
してみたのである。
そうだ、何か歌を吹いてみよう

何とかメロディーを吹くことができる。ただし、楽譜は読めないから、歌詞を追いつつ歌うのである。

「今に歌い継がれた歌」とあるように「螢の光」や「あおげば尊し」「一月一日」「荒城の月」などもある。

「七里ヶ浜の哀歌」があつた。

力もつきはて 呼ぶ名は父母
恨みは深し 七里ヶ浜



外は快晴である。しかし、風が強く吹いている。南側のガラスを透す太陽の光が、時々急に暗くなる。強い風で、竹の群が動いて、光をさえぎるのであつた。

アトリエの隅で、一人でコーヒーを飲んでいる。朝から誰も来ない。電話もない。

「日本唱歌集」という文庫本が見つかった。明治以来、敗戦に至る80年間に歌いつがれてきた唱歌というのが扱われている。

モニ力 中島 瞳雄
音楽でも聞こ
うかなと思い、
テープやC.Dの
ぎつしり詰まつ
た棚を探してみ
画に、部分的に
手を入れて、少
し休んでいると
ころ。
イーゼルに掛
けておいた風景

大東亜戦争中に小学生だった私どもは、みんな覚えていたものだ。一番と二番くらいは、今でも歌える。まさか今の小学生などは知らないだろう。「キゲンブシ」と読まれては困る。“スーダラブシ”や“トンコブシ”（これも古いなあ）などとは基本的に違う。もつとおごそかな歌なのである。

た。何の曲を聞
こうかという具
体的なものはな
い。

雲にそびゆる高千穂の
高根おろしに 草も木も
なびきふしけん大後世を
あおぐきようこそ
たのしけれ

ひかりのこ No. 168

「共育ちカンガルー日記」

3)

近藤みせる

一月のある日曜日、公民館で子ども会主催の餅つき大会が開かれた。よく晴れて風のない穏やかな日で、大きな白の周りには餅つきの順番を待つ子どもたちの長い列ができる、賑やかな掛け声を上げていた。

「ゆきちゃん、がんばれ！」優希の番が回ってくると、ひと際大きな声援が上がった。重たい杵を持て余し困っている優希に、自治会のおじさんが後ろから手を添えてくれた。そしてぎこちないながらも、掛け声に合わせて、ぺったんぺったんと餅をつき始めた。優希が参加する初めての子ども会行事だつた。

子ども会に入会したのには理由があった。地域の中に、優希の理解者や味方になってくれる人を、そして安心できる居場所を作つてあげたかった。小学校に入学するまで、優希は学区外の通園施設と幼稚園に通っていたため、地域の中に友達は少なく、優希の障害を理解してくれる人は数えるほどしかいなかつた。

もつと小さかつた頃には、何とか公園デビューを果たそうと四苦八苦した時期もあった。あの頃の

私は“普通の親子らしく”振る舞おうとただただ必死で、そうやつて頑張れば頑張るほど心はすり減つていった。私たちにとつて、地域はどんどん遠い場所になつていつた。子ども会を突破口にして何か地域に出よう、そう思つて入会はしてみたものの、いざとなると腰が引け、顔を出すことも出来なかつた。

転機が訪れたのは、ある講演会に参加したのがきっかけだつた。「誰もが幸せに暮らせる社会とは」というテーマに、ふと目が留まつた。講師は、知的障害者の通所支援施設の所長Sさん。最初の一歩を踏み出すための手がかりが、何でもいいから欲しかつた。

講演の中でSさんが強調されたことは「心のバリアフリーの大しさ」だつた。Sさんの話を通して施設に通う障害者の方々の暮らしが、少しだけ垣間見えた気がした。彼らは毎日、自宅やグルーピングからSさんの施設に通い、パンやクッキーを焼いたり、織物を織つたりして、それらを商品として販売している。労働や余暇活動を通して、生きる喜びや価値を見出しているのだ。家に帰れば、それ

講演の最後に、Sさんは心のバリアフリーについて、こんなふうに語ってくれた。

「もしもあなたが、街のどこかで彼らと出会つたら、見て見ぬふりをしないでください。彼らは時には、違和感を感じるような行動をとることもあるかもしだれない。でもそこには、彼らなりの理由があるのかかもしれない。誰かの手助けを必要としているサインなのかもしれない。そんなときは素通りせずに、どうか声をかけてみてください。心のバリアフリーって、そういうことを私たち一人ひとりが、日々の暮らしの中でやつしていくことです。」

その言葉を聞いて、私は目が覚める思いがした。思い返してみれば、私はこれまで、どれほど本気になつて優希のことを周囲に理解してもらおうと努力してきたのではなかろうか。どうせ理解などしてもらえないだろうと先から諦めて、自分から地域に背を向けてきたのではないか。出会つた人たちの中には理解したい、力になりたいと願つてくれた人も少なからずいたはずだ。その思いを、私はきちんと受け取つて来ただろうか。

「こうして私たちは、ようやく最初の一歩を、この餅つき大会で踏み出すことが出来たのだった。ここで優希はお友達や地域の人たちに見守られ、励まされ、助けられながら、同じ時を過ごしたのだ。子どもたちの笑顔の中に、優希の笑顔がある、そんなごく当たり前のことが、私にはこの上なく嬉しく感じられた。

「今日ここに参加するの、すごく勇気がいったんだ。優希はみんなと一緒に出来るのかなって心配で。でも来てよかったです。本当に。」

帰りがけ、私は顔見知りの役員さんを見つけて、そっと打ち明けてみた。優希の笑顔に背中を押されたのかもしれない。彼女は静かに微笑んで、こんな言葉を返してくれた。

「優希ちゃんの笑顔が見れて、私も本当に嬉しかったよ。みんな優希ちゃんのこと待つてたから次回もぜひ来てね。」

い所で、私は涙を流しながらハーモニカを吹いていた。
しかし、悲しい歌ばかりでは辛い。
「荒城の月」がある。これも吹いてみた。ところが、この曲はハーモニカでは息を吸い込む所が多くて、吹きにくい。でも、あの悲しさは次第にうすらいできていた。
そうだ、下總院一作曲の「野菊」

を吹いてみよう。

この曲は、すらすらと吹けた。
そして、あの悲しみは、どこかへ
吹き飛んでしまっていた。うすむ
らさきの野菊の花が目に浮かぶ。
外を吹く風も、少し弱まつてき
たようだ。

力もつきはて 呼ぶ名は
恨みは深し 七里ヶ浜

何とかメロディーを吹くことができる。ただし、楽譜は読めないから、歌詞を追いつつ歌うのである。

いつの間にか、歌詞の悲しみが伝わってきて、涙があふれてきてしまった。

”今に歌い継がれた歌“とある
ように「螢の光」や「あおげば尊
し」「一月一日」「荒城の月」な
どもある。



光の子らしく

「本当にすごいよなあ。」
と、思わずつぶやいてしまいます。
皆様、お元気ですか。

毎年何かしらあって、穏やかな
気持ちで迎えられた試しがないク
リスマスが過ぎ、今もまだ、心が
もみくちゃになるような渦中にあ
ります。

”もう、さすがにダメだな……”
そんなことばかり考えているとき、

この辺りの冬の風物詩、赤城おろしが吹き荒ぶ中、頭を低くしながら行く小学生たちを見送りながら、「本当にすごいよなあ。」と、思わずつぶやいてしまいます。

この辺りの冬の風物詩

岩崎まり子

「それは、15年くらい前になるかと思いますが、当時、私が担当していたケースで、小学校入学前に家庭引き取りになつた男の子のお母さんからでした。

『いろいろありましたが、やつと落ち着いて……。亨弘も行きたがつっているので、今度、一緒にに行つていいですか？』

もちろん、私の方に断る理由はありません。

「是非！箱根駅伝に亨弘君の名前と一緒に違うの選手が出ていて懐

思いもかけなかつた電話がありま

かしいなあ、元気かなあと思つて
いたところだつたんです。」
と答え、あとはお互い「懐かしい

つていたという。その路線図の用紙は担任氏の勤め先の特別支援高等学校的ものであつた。ナント特別支援の教師が家出の手引きをしていたのである。学校に赴いて校

そして翌日午前3時半、新宿署から泥酔して寝ころんでいる悟郎を保護した、すぐに引き取りに来るようとの連絡があつた。

悟郎が光の子どもの家に戻ったのは朝5時半過ぎだった。

警察などの話によると、最寄りの駅から中目黒までの路線図を持

が見あたらない。
いよいよ辺りが暗くなり、夜の
8時を回った。施設長が警察に捜
索願を出して情報を待つことにし

高校一年生の2月、悟郎が家出した。周囲の情報によると、ゲートセンターで出会った男と約束して東京に行つたようだと言うことが分かった。しかし、出かけたのは夕方で、普段着のままだった、彼の能力で東京の盛り場などに行くことなど不可能であることなどから、周囲を数人の職員で探した

うしたの、と聞くと担任の先生からもらったという。職員には、きちんと話し合いを持つて今後の関わりを整理するよう言つた。しかし、その担任氏はまるで友だちのような関わりで、ふらつとやつてきては、洋服を買い与えたり一向に改まらないままに過ぎてしまつたのである。アポなしでやつてくる担任氏に困ることなく半年ほどが過ぎた。

——今日の前の子どもたちに対しても、卒園していく子どもたちに対しても、そう言うしかないような現実があります。私の心身の力量のなさだと思います。

“出来なかつた、申し訳ないけれど、ここまでしか出来ない”

季節は巡ります。今、やつとの
思いで立っているという方がいる
かも知れません。

季節は巡るのです。いつまでも
今“が続くわけではありません
ですから……せめて、口角を上
げて生きていきましょう。

どうぞみんじみ思ひます
私のような者が居続けることに
何の意味があるのか、あるものか
とすさんだ心持ちでいるときに、
時折やつてくる懐かしい“お客様
は、”いろいろあつて……“の過
去を懐かしさと言うオブラートで
包んで現在に届けてくれます。そ
して、そのときからまた、新たな
関わりが始められるような、そん
な未来への目も同時に届けてくれ
るようです。

A detailed botanical illustration of a flowering branch. The branch, shown from a side-on perspective, features several pairs of small, rounded leaves. At the junctions where the leaves meet the stem, there are clusters of small, five-petaled flowers with prominent stamens in the center. The drawing uses fine lines and shading to show the texture of the leaves and the delicate structure of the flowers.

31回目の年度に入る。

この間に、なんと多くの方々の善意に基づくご支援やお励ましをいただいてきただろう。そのことを思うにつけ感慨一入である。

光の子どもの家は30年前の開設の頃から、担当職員一人あたり、5名以下の子どもを担当してもらうことではたらきを進めてきた。担当職員とほぼ同じぐらいの保育士・指導員をサポートとして配置しなければならない。だから国などの公の基準をはるかに超えてはたらき展開することができた。この春概ね50年ぶりに施設設置最低基準が改定される。直接処遇職員一名につき子ども6名だったものが4名になる。ようやく公の基準が光の子どもの家に近づくことになる。これの実現は、ご支援の皆様の善意を外しては語れないと悟る。

さて、その善意である。これがまた大変である。

などを再判定して、知的障害者手帳を取得した。それと同時に暴力的な行為が目立つようになつた。言語表現が下手な上に語彙の取得が苦手。制止や指摘が入らず、そのことで激昂し、鉄や包丁などを取り出し襲いかかろうとすることがしばしばになつた。他の子どもや職員の身体の安全も危惧されるようになつてきていた。児童相談所の経過観察などにより、対応の仕方の工夫などについてご指導をお願いしてきた。結局、グループホームでは対応する職員が限られるため、大人の目が多い本園に戻り、特別支援学校の高等部に入学したのは、5年前のことである。その5月過ぎに特別支援学校の担任教師が尋ねてきた。子どもに直接関わるボランティアには、こここの子どもの説明や関わり方などについて説明し、職員たちと同じ子ども理解に立つて同じ向きになつて子どもに関わつてもらうよう依頼し、同意の上で関わつてもらうことにしている。しかし、その担任氏は、ふらつとおいでになり、○○ちゃんいる?と尋ね、玄関先で会わせるとそのまま出かけてしまうようになつた。夏休み前のことである。悟郎は持つていてはすのないお金を持っていた。ど

うしたの、と聞くと担任の先生からもらつたという。職員には、き

長・教頭に事の次第を告げて、事の事実確認をした。

2015年度も

基準外職員確保のための

今年は
6/6
バザーを行います。

バザーのための品物のご協力をお願いします。

バザー実行委員会

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2014年11月~12月

2014年11月現在

幼児3名 小学生12名 中学生8名 高校生11名 計34名

- 3日 光の子どもの家創立30周年記念第30回感謝の集い
日頃からお世話になっているたくさんの方々がお越し
下さった 感謝を込めておもてなし アトラクション
として羽生津軽民謡道場の皆さんとまりずむんの皆さ
まが演奏してくださる
第106回理事会 光の子どもの家の施設長が竹花信恵となる
- 8日 ボランティアの山田智さま裕子さまご夫妻が来訪
子どもたちと遊んでくださる 感謝
- 20日 築地銀だこの皆さんが来訪し美味しいこ焼きをみん
なに振る舞ってくださる 感謝
- 22日 埼玉県社会福祉士会の方々が来訪見学
- 26日 芹沢俊介氏による第16回施設内研修 感謝
- 28日 若月健悟牧師による職員礼拝 感謝
- 29日 幼稚園表現発表会 踊りや歌やピアニカ演奏などいつ
もとは違う緊張した顔や堂々とした姿をみせてくれた
- 30日 第一アドベント 夕食会
- 12月
- 7日 第二アドベント 夕食会
- 8日 日本社会事業大学の藤岡孝志先生による施設内研修
毎年恒例となった貴重な学びの機会 感謝
小学校との連絡会 子どもたちがお世話になっている
先生方と情報共有 子どもたちの成長と課題を確認
感謝

13日 グロッケンシュピールの皆さんによるハンドベルコン
サートへのご招待 大きなハンドベルを見て目を丸く
する子や大人顔負けの感想をアンケートに書く子など
それぞれの感性に響いた様子 感謝

14日 第三アドベント 夕食会

21日 第四アドベント 夕食会

24日 クリスマスイブのキャンドルサービス ろうそくの灯
りの中で大人も子どもも一堂に集いメッセージを交わす

25日 クリスマスページェント たくさんのお客様の前で子
どもたちがイエスキリストの降誕劇を演じる お祝い
会では交換プレゼントなど楽しい時間を過ごす 感謝

27日 餅つき 60キロのもち米を朝から夕方までかかって
みんなで餅つき 小さい子は小さい杵で頑張っていた
<物品寄贈者各位>

根岸亞麗朱 榎本淳一 栗原妙子 木村郁子 東埼玉バプテス
ト教会 藤田陽子 矢澤澄香 ビームス古河店 鎌田幸一 横
村スミ子 小沢晶子 岩槻教会 富士見ヶ丘キリスト教会 石
川俊浩 松本明子 小林公己子 加須市更生保護女性会 セカ
ンドハーベストジャパン 岡村真千子 (株)カゴメ 小暮伸二
大橋清栄 仙道富士郎 藤井多嘉史 茂木由美子 平林恵子
松本明子 山内弘 中島睦雄 江森百合子 (株)藤沼畜産 針ヶ
谷真治・幸栄 市川美津子 青島慶子 小山田貴子 吉羽良美
毎日新聞東京社会事業団 宮本美和 他多数の皆さん
☆力強いお支えに感謝いたします。次の年度に向けての準備に
取り組んでおります (洋一)

|||| ————— 反 射 光 ————— ||||

光の子どもの家が創立から30年を
迎えた今年度も終わろうとしており
ます。皆さまからのたくさんのお支
えとお祈りに心から感謝申し上げま
す 目が回るほど忙しい毎日の中で
あれはもう手が回らないからいや、
後でいいやと思つてしまふことが多
々あります。しかし子どもはその日
のその時、一瞬一瞬を濃密に生きて
おり、後でいいですとはいきません。
思い返しても子どものことについて
後回しにして良かつたと思える
ようなことは一つもありません▼年
度末は子どもたちの進級進学の準備、
自立などに加えて事務的な仕事も増
えます。子どもたちに関わる時間が
どうしても減つてしまつたり、話を
聞いていても上の空だつたりといふ
こともしばしば。しかしながら時こ
そ、後回しにして良いことはなかつ
たという経験を活かしていかなければ
と肝に銘じます。この子の今日が
素晴らしいものとなり、明日もまた
元気に過ごせますようにと祈ります
▼新たな年度を迎える前に、今年度
に限らずこれまでの私たちの歩みを
振り返っております。いつでも足り
ない者である私たちです。今後とも
皆さまからのご指導とお力添えをよ
ろしくお願いいたします。 (洋一)